

Pogonomyrmex rugosus

Emery, 1895

深い穀物庫と、巣のまわりのむき出しの円盤をもつ、がっしりした砂漠の種子収穫アリで、刺されるととても痛めます。



写真： Jake Nitta (froggy143), CC BY 4.0

ひと目でわかる情報



巣の温度

26–30 °C

巣の中



巣の湿度

50–70 %

穀物庫：30–50 %



休眠

13–16 °C

12月 – 2月



結婚飛行

7月 – 9月

雨のあと、暑い日、湿度が高い日



働きアリ

7–9 mm

どれも同じ大きさ



女王

12–14 mm

女王は1匹



コロニーの規模

働きアリ8,000匹規模

成長速度：普通



脱走リスク

中程度

アウトワールドに脱走防止の対策をしましょう

1年をひと目で



この種の実産地での月です。正確な日は天気で決まり、室内で飼育しているコロニーは別のリズムになることがあります。

同じ縮尺での大きさ

働きアリ

7–9 mm

女王

12–14 mm

0 5 10 15

飼育の早見表

食べ物

種子

昆虫

砂糖

おすすめの巣

1. 自然再現型のセットアップ
2. Ytongの巣
3. アクリル製の巣

この評価の理由

- ✓ 完全閉鎖型：最初の働きアリが現れるまで、女王に餌は不要です
- ✓ 種子を貯めるので、餌やりを忘れても問題ありません
- ⚠ 好奇心が強い働きアリなので、アウトワールドに脱走防止の対策をしましょう
- ⚠ 乾いた穀物庫と湿ったブルード室のように、湿度の勾配が必要です
- ⚠ 働きアリが刺すことがあります

飼育者からのメモ

ヒント

主食は種子です。タンポポ、チア、カナリーシード、キビなど、イネ科や雑草の小さな種子を混ぜて与え、毎週、小さな昆虫も少し加えましょう。種子の貯蔵場所は乾いた状態を保ち、芽が出たりカビたりした種子は取り除いてください。糖分の液体は必須ではなく、そこで働きアリを失った飼育者もいるので、控えめに与えましょう。

注意

創設中の女王アリに餌はまったく要りませんが、辛抱は必要です。何もない試験管では卵を食べてしまう女王アリもいるため、掘れる砂や土のあるほうがうまくいきます。若いコロニーは、成長が軌道に乗るまで何か月も小さなままのことがあります。いじらずに、暖かく静かに保ちましょう。